

令和 2 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業  
若年性認知症支援者研修会 八重山地区開催 報告書

1. 研修会名：「令和 2 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業 若年性認知症支援者研修会」
2. 目的：若年性認知症の方々が、個々の状態に応じた適切な支援が受けられること。  
認知症と診断されても治療しながら働く（両立支援）・就労支援について普及啓発実施。
3. 主催：沖縄県（受諾 特定医療法人アガペ会）
4. 対象：医療・福祉・就労に携わる支援者、若年性認知症初期相談対応職員。
5. 方法：平成 31 年 3 月 認知症介護研究・研修大府センター作成  
企業等を対象とした若年性認知症の理解促進に向けた研修会テキスト資料を用いて就労支援の方法について説明を実施。

6. 開催地区並びに開催日、時間、会場について

開催地区	開催日及び時間	会場と定員数
八重山地区	令和 2 年度 7 月 9 日（木） ①10 時～11 時（受付 9：30～） ②13 時～14 時（受付 12：30～）	石垣市健康福祉センター（視聴覚室） ①20 人 ②20 人

※新型コロナウイルス感染拡大予防対策について

「沖縄県主催イベント等実施ガイドライン」や開催会場のガイドラインに沿って開催。

最少人数・時間短縮での開催、マスク着用、健康状態申告書の提出、消毒等、感染予防対策に従事する。

最少人数・時間短縮による開催の為、参加者の距離、換気、消毒の徹底に努め、2 回開催とした。

7. 参加費用：無料
8. 申込方法：専用申し込み用紙に、開催地区選択、氏名、所属先、連絡先、健康状態申告書の送付先記載をし、FAX（098-943-4702）まで。FAX がない方は電話申し込み（098-943-4085）。  
申し込み期間：令和 2 年 7 月～開催日の 1 週間前まで（参加決定者に健康状態申告書の送付を行う為、1 週間前に締め切り期限を設定）、先着順とした。
9. テキスト：新型コロナウイルス感染拡大予防対策に基づき、配布資料なしとした。
10. 広報

・新オレンジサポート室：石垣市地域包括支援センターより関係機関へチラシと申込用紙を FAX 送信、石垣市社会福祉協議会へ周知依頼、石垣毎日新聞掲載、

「R2 年度若年性認知症支援推進事業」チラシ・ポスター郵送  
7/6 434 件

・県高齢福祉課：「若年性認知症支援者研修会要項」を福祉関係機関へ FAX

11. 申込人数 ①16名 ②15名

12. 参加人数 ①12名 (医療0名、介護保険事業所5名、包括3名、行政3名、不明1名)  
②14名 (医療2名、介護保険事業所4名、包括3名、行政5名)

13. 研修内容

【若年性認知症当事者の就労について、沖縄県内の支援状況】

		内 容
1	就労支援	若年性認知症・認知症とは 若年性認知症の人への就労支援 ・雇用期間中にできること、ジョブコーチ支援、福祉的 就労、社会参加 ・ソフトランディングの視点 ・若年性認知症支援コーディネーターの役割について
2	沖縄県の現状	・沖縄県内の若年性認知症当事者の就労について事例報 告 ・若年性認知症当事者・家族による自助活動グループ 「フンドウ」紹介

14. 質疑応答

- 1) 沖縄県の相談件数、相談方法、相談介入のタイミング等について質問あり。
- 2) なし

15. アンケート結果 回答 26名 回収率 100%

16. アンケート内容

※コロナウィルス感染拡大予防対策に基づき、記載したアンケートは7日、日数経過を置き  
集計作業を実施した。

質問1 現在、またはこれまでに、若年性認知症の方の就労支援をおこなったことはありますか。

ある 3 支援内容 ・移動支援（散歩）、生活援助（調理）。  
・医療機関へのつなぎ、就労支援事業所へのつなぎ、経済的相談。  
・認知症初期集中支援チームで関わった50代の男性の方、就労  
継続支援 B型につなげた。

ない 20 相談がない 3 ・ その他（ ）

質問2 現在、若年性認知症の方を支援していますか。または、支援が必要な方はいますか。

いる 8 困っていることなど

- ・どこに相談していいかわからない人が多い。相談が少ない、行き場がない、高齢化しているが介護認定に該当しないような身体的には元気。
- ・お金の問題、親兄妹と妻の病気に関する理解や需要のずれ。
- ・通える場（カフェ）や同じ状況の方との交流などが少ない。
- ・配偶者さんの負担が大きい。
- ・資源が整っていないせいか、すぐ介護保険の申請をやりがち。申請したとしても必要なサービスがそこにはない。
- ・食事作り、掃除を行っています。一人暮らしなので食事を作りタッパー等に入れて冷蔵庫や冷凍庫に入れていますが（日にちなどを記入して）ちゃんと食べているか心配です。週一回の訪問ですが訪問日には全部食べている。

いない 18

質問3 本日の研修会で若年性認知症の方の就労支援について理解できましたか。

とても理解できた	まあ理解できた	難しかった	回答なし
<u>12</u>	<u>12</u>	<u>1</u>	<u>1</u>

質問4 若年性認知症支援コーディネーターの役割について理解できましたか。

とても理解できた	まあ理解できた	難しかった	回答なし
<u>13</u>	<u>12</u>	<u>0</u>	<u>1</u>

質問5 本日の研修会で参考になったこと。

- ・相談件数（延べ）1600件／年。
- ・就労中に受診につなぎ必要な制度・支援を受ける。介護を受ける時の利用者は進行がかなり進んでいる方がいるので訴えが乏しい為難しいが、本人の気持ちが大事だと習い心掛けたい。
- ・ソフトランディング、両立支援、雇用期間中の診断、雇用者との調整
- ・年金、経済面など。
- ・たくさん情報を頂き参考になった。
- ・ひとりで家族がいない場合の対応について
- ・就労について
- ・支援の窓口があることを知れてよかった。
- ・だいたい支援の流れ。
- ・若年性認知症支援コーディネーターの役割。
- ・役割の内容が分かりやすかった。
- ・沖縄県での支援状況について知ることができた。
- ・認知症かうつ病、もしくはそれ以外の疾患か判断が難しいため専門の先生に見てもらった方が良い。
- ・若年性認知症の進行の経過

- ・当事者・家族・会社の方の気持ち
- ・若年性認知症の方が多い
- ・地域資源の整備→本人が何のサービスを欲しているのか見極め提供できるように
- ・支援を受けることができると知った。
- ・若年性認知症の人の気持ち、現在の活動など。
- ・認知症サポーター養成講座があること。
- ・社会活動の場所へ参加させる意義について。
- ・就労支援の内容を知れた。

質問6 コーディネーターに望むこと、コーディネーターから欲しい情報はありますか。

- ・言葉かけや意思疎通の仕方を習いたい
- ・事例を通して発症から就労へ繋げたケースをもっと詳しく知りたい（家庭や経済面も）
- ・若年性認知症の方の支援に関わる時、相談させてもらえれば・・・と思います。
- ・認知症疾患センター医を受診したくても移動・同行者などハードルが高い。
- ・これまで聞いたことがないため統計情報もあるとイメージしやすい。
- ・あります。情報交換したいです。
- ・石垣圏域の若年性認知症の現状。
- ・たくさんあります。でも少しずつ支援の仕方を学んでいければと思いました。
- ・今後経験の中で相談させてもらいたい。
- ・各地区の動きなどを知れたら・・・（就労支援の様子や認知症カフェなどの状況）  
離島なので本島や宮古など、どのような支援をしているのかわからない（情報がない）。
- ・認知症初期集中支援チームの動きなど知りたい。

質問7 離島地区ならではの悩みはありますか。

- ・60代の方の行くデイケア・デイサービスが無い（お年寄りの中に入りづらいのか行きたくないと言う人もいる）
- ・疾患医療センターがなく主として相談できる医療機関が少ない
- ・入院治療が難しい。触法の認知症の方を地域につなぐ体制も構築されていないので（地域生活定着支援センターもない）ケースにより場当たりの対応しかできず触法を繰り返す方が多い。悩みだらけです。グループホームも常に満床、施設入所も非常に難しいです。
- ・これまでかかわったことがないため予測になるが、アルコール問題を抱えている人もいるのではないかと感じた。
- ・たくさんあります。活用できる資源や相談場所、マンパワー・・・
- ・認知症の専門医につなぐことへの難しさがあります。
- ・相談できる場所、病院が無いのでどのように相談したらよいのか不安がある
- ・認知症の治療を専門としている病院がなく、困難ケースが途方に暮れることになっている。
- ・市で認知症コーディネーター（？）が不在。
- ・認知症専門医が不在であること。
- ・認知症専門の病院がない事。
- ・周囲の目を気にして、外部に相談を求めないことが多い。

- ・本人、会社、地域の理解があまりない。隠したがる傾向が強い気がする。

質問8 今回の講演会についての満足度を教えてください。

とても良かった	まあ良かった	良くなかった	回答なし
<u>14</u>	<u>11</u>	<u>0</u>	<u>1</u>

質問9 次回への要望や感想など（自由記載）

- ・島内では若年性認知症の認知度・理解が低いため市民講演・周知が必要だと感じた。
- ・事例をたくさん聞きたい、支援内容（具体的に）
- ・ケースの事例をききたいです。支援→後方支援の流れなど
- ・配布資料があると所内へも共有しやすいです。
- ・今回初めて認知症と就労について考えさせてもらいました。流れが速いのでスライドのコピー等を貰えるといいなと思いました。
- ・認知症についてももう少し学びたいと思いました。
- ・レジメもほしいです。残したいです。
- ・振り返るために資料があったら嬉しかったです。
- ・他の病気なのか認知症なのか分かるのに時間がかかる
- ・オンライン良いと思います
- ・大変わかりやすかったです
- ・大城さんのお話も勉強になりました。コロナがおさまったら当事者のお話しも聞きたいです。

## 17. 主催者の所感

コロナウイルス感染拡大予防対策の為、人数制限（最小人数）・時間短縮での開催とした。当初は事例検討会としてグループワークを行なう予定であったが、対話を行う事は避けるという事で急遽、内容変更を行ないました。イベント開催についてもコロナウイルス感染予防の第一回自粛期間を明け、翌月の研修会開催となった為、申込期間が6/24～7/1と短期間での調整となり、包括へ関係機関へのFAX送信の協力をして頂き広報したが、十分な広報期間とはいかなかったと感じています。

今回は就労支援についての内容となる為、就労支援事業所等の支援者も対象としましたが、今回北部地区での就労支援事業所の参加はありませんでした。認知症について～就労支援について、コーディネーターの役割、県内の事例報告等について等の全ての内容を説明するには1時間は短く厳しい状況ですが、アンケートの記載を確認すると事例内容は紹介できたかと感じています。第1回目に、障がい福祉課の方が参加しており、認知症について理解していないので基本的な講義をしっかりと聞きたいという発言が帰り際聞く機会があったので、認知症についての基本的な部分もきちんと説明は必要と感じています。感染対策の面から、今後はオンラインでの研修会開催が望めないかも含めて開催方法についても検討していきたいと思っています。

以上